令和２年度・３年度　杉並区教育委員会教育課題研究指定園

教育課題　子どもの発達や学びの連続性を踏まえた就学前教育の質の向上

研究主題

幼児期に育みたい資質・能力

～幼児の“やりたい”が引き出される環境の工夫～

杉並区立西荻北子供園

ご挨拶

杉並区教育委員会　教育長
白石　高士

幼児期の教育は、生涯にわたる人格形成の基礎を培う重要なものです。

令和３年１月に示された中央教育審議会の答申「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」では、「良好な環境の下、身近な環境に主体的にかかわり様々な活動を楽しむ中で達成感を味わいながら、全ての幼児が健やかに育つことができる」ことが、幼児教育において目指すべき学びの姿とされ、各園の創意工夫を生かした実践が求められています。

幼児は生まれながらにして自然に成長する力や自分から対象へ働きかけようとする力を備えています。その幼児のもつ“やりたい”という姿を出発点として主体的な活動を引き出すことは、遊びを通して学びを編集していくことであり、本園の研究は、こうした幼児教育の方向性を踏まえたものとなっています。

本報告にある幼稚園教育要領の、幼児期において育みたい資質・能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」について、より具体的な幼児の姿として捉え直し、実際の活動と結び付けて示したものは、これからの就学前教育の向上に大きく貢献するものとなるでしょう。

西荻北子供園の研究が区内の子供園はもとより、全国の就学前教育施設において、自ら“やりたい”と遊び始めた子どもたちの健やかな成長につながっていくことを願っております。

はじめに

杉並区立西荻北子供園　園長
石床　美穂子

「なんだろう。」「面白そう。」「やってみたい。」と、遊びはいつも子どもたちが、心を動かすことから始まります。私たちは、子どもたちが自ら“やりたい”と始めた遊びの楽しさに共感し、支えていくことで、遊びが豊かになり、「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」の資質・能力を幼児期に育むことができると考え、幼児の“やりたい”という思いを出発点に研究を始めました。

私たちは、この研究を進めるにあたり、遊びの読み取り、子どもの自発的な活動につながる援助、幼児の実態やねらいから構成する環境などを、よく考えて保育をすることを大切にしてきました。研究が深まるにつれ、「楽しい。」「できた。」「もっとやりたい。」と、生き生きと遊ぶ西荻北子供園の子どもたちの姿が多く見られるようになったことは、この研究の一番の成果だと思います。

このような成果が、杉並区の就学前教育の充実に生かされるよう、今後もさらに実践を積み重ね研究を深めてまいります。

この研究を進めるにあたり、丁寧な御指導、御助言をいただきました共立女子大学教授　田代幸代先生、このような貴重な機会を与えてくださいました杉並区教育委員会の皆様に心より厚く御礼申し上げます。

あいさつ ……1
ご挨拶　杉並区教育委員会教育長　白石　高士
はじめに　杉並区立西荻北子供園園長　石床　美穂子

■研究の概要
主題設定の理由……3
研究の内容……4
研究の方法……5

■事例
事例　3歳児　安心して環境に関わり遊びを楽しむ ……7
事例　4歳児　興味や関心をもって自分から関わり、遊びを楽しむ ……9
事例　5歳児　友達と考えを出し合いながら一緒に遊びを楽しむ …… 11

■まとめ
幼児期に育みたい資質･能力 …… 13
幼児の“やりたい”が引き出される環境の工夫 …… 15

■小学校との接続･成果と課題
小学校との接続 …… 17
成果と課題 …… 17

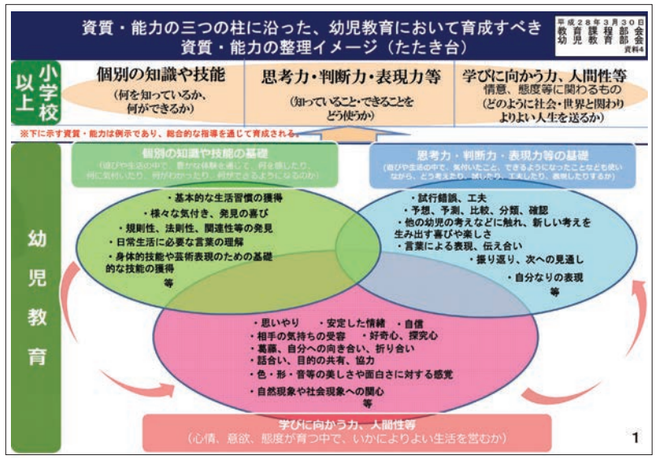
御指導いただいた先生 …… 18
研究に携わった教職員 …… 18

主題設定の理由

『幼児教育において育みたい資質･能力「知識及び技能の基礎」「思考力、判断力、表現力等の基礎」「学びに向かう力、人間性等」』について、私たちは、幼児期にふさわしい生活を通して育んでいきたいと考える。この三つの資質･能力は、生きる力の基礎であり、小学校以降の子どもの発達を見通しながら、遊びを通して総合的に育てていくことが大切である。

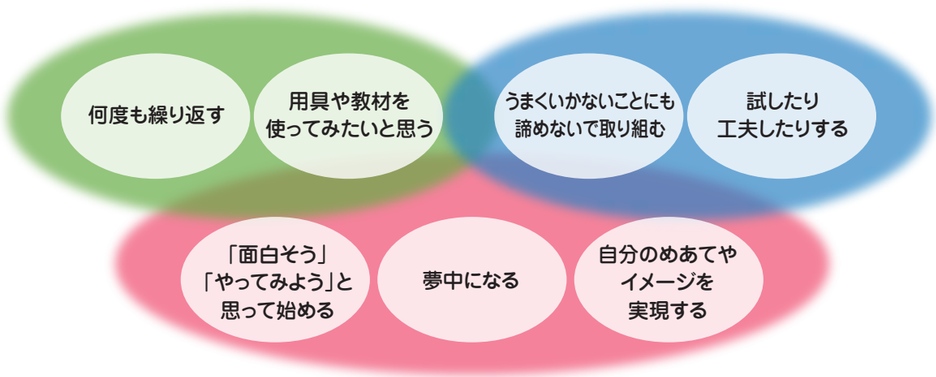
本園で繰り広げられる遊びを中心とした生活の中では、幼児の興味や関心に基づいた自発的な活動を通して、幼児自身が充実感や満足感を味わうことを実感している。しかし、幼児の実態として、保育者が提案した活動は素直に受け入れて取り組むが、幼児が“やりたい”という思いをもって自ら周囲の環境に関わり、遊び始めることが少ない傾向があることも感じている。

そこで、私たちは、幼児の“やりたい”という思いに着目した。“やりたい”という思いをもって遊びに取り組む幼児の姿を手掛かりに、直接的･具体的な体験を豊かにするための環境の在り方について探っていくことは、発達に応じた三つの資質･能力を育むのではないかと考える。



平成28年8月26日　教育課程部会　幼児教育部会資料より引用

本園の考える、幼児の“やりたい”姿とは次のとおりである。



このような、幼児の“やりたい”姿が引き出されるには、援助や環境の在り方が重要である。日々の実践事例から、幼児期に育みたい資質･能力を捉え、援助や環境の在り方を明らかにしたいと考え、研究主題を設定した。

研究の内容

幼児期に育みたい資質･能力は、環境を通して幼児の”やりたい”という思いが引き出され、幼児が主体的に遊ぶ中で育っていくと考え、事例検討と研究保育から援助や環境の工夫の在り方を考察することとした。

研究主題

幼児期に育みたい資質･能力

～幼児の“やりたい”が引き出される環境の工夫～

研究の目的

1. 幼児期に育みたい資質･能力を捉える。
2. 幼児の“やりたい”が引き出される環境を探る。

仮　説

幼児期に育みたい資質･能力は、
環境を通して幼児の“やりたい”という思いが引き出され、
幼児が主体的に遊び、直接的･具体的な体験の中で育っていく。

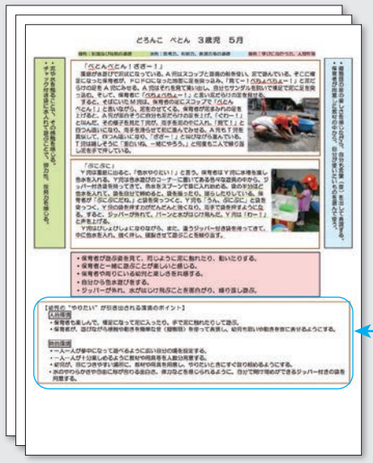
研究の方法

事例検討･研究保育

毎日の保育や研究保育から、幼児が“やりたい”という思いをもって遊んでいる姿を、
主体性や直接的･具体的な体験を中心に記録し、
その遊びの中で育った資質･能力及びそれを支える
環境や保育者の援助の在り方を考察する。

研究の方法

■事例検討・研究保育

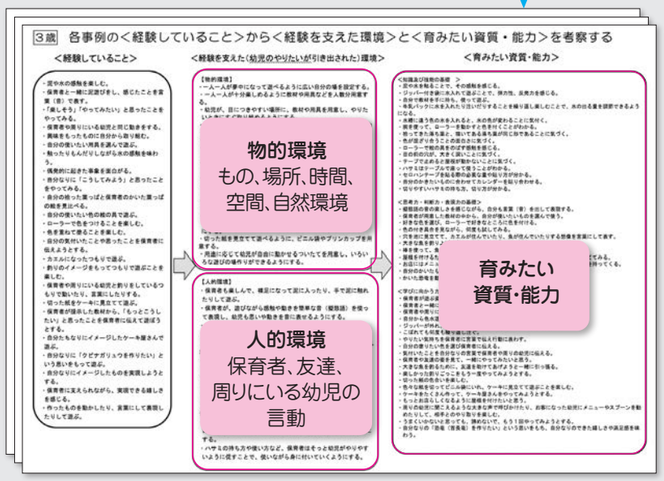


幼児が“やりたい”という思いをもって遊んでいる姿をエピソードとして記録し、幼児の“やりたい”が引き出される環境と育まれた資質・能力について考察する。

やりたい思いをもって遊ぶ姿を記録する

環境と資質・能力の関連性を探る

■事例を考察し整理する



■幼児の“やりたい”が引き出される環境を探る

環境の観点を整理する

環境の観点を基に事例を再検討する

■“やりたい”が引き出される環境の観点

知識及び技能の基礎

- 自分で：自分で用具・教材を扱えるように
- 繰り返し：繰り返しやりたいと思えるように

思考力、判断力、表現力等の基礎

- 試したり工夫したり：試したり、工夫したりできるように
- 表現する楽しさ：表現する楽しさを感じられるように

学びに向かう力、人間性等

- 安心：安心してものや人と関われるように
- 興味：興味がもてるように
- 友達と一緒に：友達と一緒に楽しめるように

この事例の“やりたい”姿

三つの資質・能力について“やりたい”と思って遊んでいる姿から読み取れる内容

環境の観点から幼児の“やりたい”が引き出されるための環境の工夫

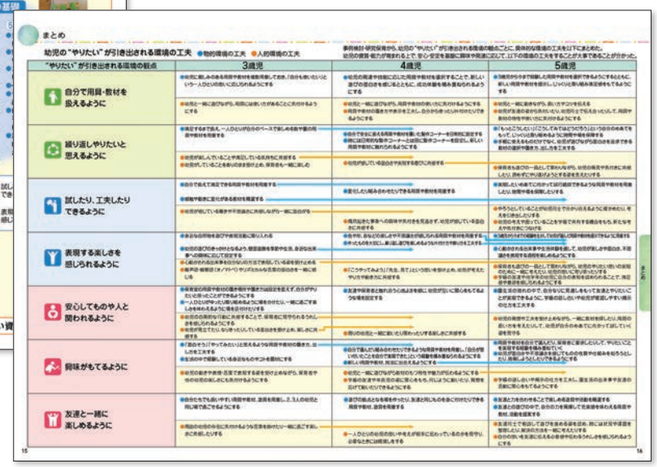
発達に応じた三つの資質・能力

研究目的❶

幼児期に育みたい資質・能力を捉える

研究目的❷

幼児の“やりたい”が引き出される環境を探る



事例 3歳児 安心して環境に関わり遊びを楽しむ

幼児の姿・保育者の願い

○入園後、一か月が経つ。園生活に慣れてきて、自分のやりたいことを見付けて遊ぶ幼児や、保育者と一緒にいることで安心する幼児がいる。

・自ら環境に関わって遊ぶ中で、安心して自分の思いを動きや言葉で表してほしい。
・水や泥の遊びでは、保育者と一緒に遊びながら感触を楽しんでほしい。

やりたい思いが引き出されると考えた環境の工夫

○「面白そう」「やってみたい」と思えるように、水を張ったタライや水を汲むカップを保育室前の園庭に置き、土や水の感触を楽しめるようにする。
興味

○幼児の自発的な動きに共感しながら、保育者や他の幼児の動きに気付けるようにする。
安心

○幼児がしていることをありのまま受け止め、保育者も一緒に楽しむ。
繰り返し

○動きや感触と擬態語の響きが合う面白さを感じる。
表現する楽しさ

○同じ場にいる幼児の存在を感じ、一緒に過ごす楽しさを感じる姿に共感し見守る。
友達と一緒に

○保育室前のテラスに、一人ひとりがゆったりと水に触れられる場を設定する。
安心

○3歳児の手の大きさや力で扱いやすい用具（ペットボトル、ビニル袋、スプーン、カップ等）を幼児が自分で選べるように用意する。
自分で

○幼児が感触を実感できたり、動きを楽しんだりできるように、教材の感触を擬態語にして言葉で表す。
表現する楽しさ　興味

○幼児が楽しんでいることを受け止め、見守る。
繰り返し

やりたいと思って遊んでいる姿

「面白そう」「やってみよう」と思って始める　何度も繰り返す

5月　べとんべとん!ざざー!

2～3人の幼児が裸足になって、タライの水をカップですくい、地面に流し始める。タライの周りに水溜まりができ、土がどろどろになり、幼児は「べちょべちょ。」と言いながら泥の感触を楽しんでいる。その様子をA児はじっと見ていた。

保育者は裸足になり、泥の中に足を入れて「見てー!べちょべちょー!」と泥だらけの足を幼児に見せる。

A児はそれを見て笑い出し、自分も裸足になると、保育者のまねをして、泥に足を入れて遊び出す。そして、保育者に「べちょべちょー!」と泥だらけの足を見せる。

側にいたB児は、保育者の足にスコップで「べとんべとん!」と言いながら、泥をのせてくる。保育者は泥まみれの足を上げて、「ぐわー!泥を付けてもらったら、こんなになった!」とA児に見せる。面白そうにA児も、「ぐわー!」と泥だらけの足を上げる。

その様子を見たC児が、両手を泥の中に入れ、「見て!」と四つん這いになり、両手を滑らせて前に進む。

A児もC児のまねをして四つん這いになり、「ざざー!」と叫びながら進む。2人が同じ動きや泥の感触を楽しみ始めたので、保育者はその場をそっと離れ、幼児の姿を見守る。C児は「面白いね。」とA児に言い、2人で何度も繰り返して遊んでいる。

6月　ぷよぷよ!ぱーん!

D児はテラスの場を見付け、「やりたい!」と言い、遊び始める。置いてある様々な用具の中から、ペットボトルとスプーンを選ぶと、水槽の色水をスプーンですくい、ペットボトルに入れ、少しずつ水が増える様子を楽しむ。

しばらくすると、ジッパー付きのビニル袋を選び、スプーンで色水を袋に入れ始める。D児は半分ほど入れて、袋を閉めると、袋を振ったり、揺らしたりして、中の色水の様子を見ている。保育者が袋を突つくと、D児は「ぷよぷよだよ。」と言い、「ぷよぷよ。」とつぶやきながら繰り返し袋を突つく。段々と力は強くなり、両手で袋を押すようになる。すると、ジッパーが外れて、パーンと水がはじけ飛ぶ。D児は「わー!」と声を上げて喜ぶ。びしょびしょになりながら、また、袋の中に色水を入れ、「ぷよぷよ!ぱーん!」とつぶやきながら強く押し、繰り返し破裂させて水が飛ぶ様子を楽しむ。

育みたい資質・能力

知識及び技能の基礎

●泥や水の変化や、ビニル袋に入れた水の弾力性に触れ、いろいろな感触を楽しむ。
感触を楽しむ

思考力、判断力、表現力等の基礎

●水や泥の感触や変化を楽しむ中で、自分なりに使いたいものを選んだり試したりする。
使いたいものを選んだり、試したりする

●保育者が発した擬声語・擬態語（オノマトペ）や動きの楽しさを感じ、安心して自分から動いたり表現したりする。
楽しいと感じたことを動きや言葉で表現する

学びに向かう力、人間性等

●保育者や周りにいる幼児と一緒に過ごす楽しさを感じる。
保育者や周りの幼児と一緒に動くことを楽しむ

●保育者が遊ぶ姿を見て、同じように泥に触れる。
保育者に親しみをもち、安心して動く

●偶然の変化や水や泥の感触を面白がり、繰り返す。
面白い、楽しいと感じたことを満足するまでやってみる

事例 4歳児 興味や関心をもって自分から関わり、遊び を楽しむ

幼児の姿・保育者の願い

○数日前から、シャボン玉をして遊んでいる。シャボン玉ができるよう息を調節し、飛ばしている。

・色や形、大きさ等、シャボン玉の不思議さや面白さを感じてほしい。

○自分の好きなものや場を見付けて遊びを楽しんでいる。園での過ごし方や用具の使い方には個人差がある。

・楽しく遊ぶ中で、様々な用具や教材に触れてほしい。
・友達や保育者の姿に、興味をもってほしい。

○5歳児の姿に憧れと興味をもち、自分もやってみたいと思って、遊び始める。

・これまで使ったことのある教材や用具を使い、自分のやりたいことを楽しんでほしい。

やりたい思いが引き出されると考えた環境の工夫

○幼児がやりたいときに自分のペースで楽しめるよう、一人ひとりにシャボン玉液が入った容器とストローを用意する。

自分で　繰り返し

○幼児なりの気付きや驚きや面白さに共感し、見守る。

繰り返し　試したり工夫したり　表現する楽しさ　安心

○幼児の必要感によって選べるよう、環境を再構成する。

自分で　興味

○はさみを1回動かすだけで切れる幅の色画用紙を用意する。

自分で

○切った紙片を食べ物に見立て、ハム君（幼児に親しみのあるハムスターの人形）に食べさせる姿を見せる。

安心　興味

○幼児もやってみたくなるように、製作コーナーを設定する。

自分で　繰り返し

○食べ物と人形を媒介に、友達や保育者とのやりとりの楽しさを感じられるように関わる。

安心

○幼児が自分で選んでつくれるように、保育室の製作コーナーに教材を用意する。

自分で　試したり工夫したり

○幼児がやりたいと思ったことを自分で実現した喜びに共感する。

繰り返し　表現する楽しさ

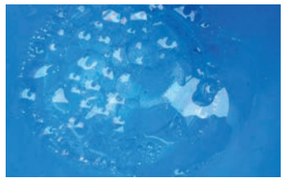
○5歳児が踊っていた曲を用意し、流す。

表現する楽しさ　友達と一緒に

やりたいと思って遊んでいる姿

「面白そう」「やってみよう」と思って始める　試したり工夫したりする

5月　きらきらがいっぱい!



3人の幼児が、シャボン玉を吹き、ふわふわと飛ぶ様子や地面に落ちてぱちんと割れる様子を見て楽しんでいる。

E児が吹いたシャボン玉が、水を張ったバケツの中に偶然落ちるが、割れずに水の上にシャボン玉が浮かぶ。「シャボン玉が割れない!」と喜び、今度はバケツの中に向かってシャボン玉を何度か吹く。

E児が「先生、見て!面白いよ。」と言い、保育者がバケツをのぞき込むと「あのね、ここ、泡が消えないの。」と、盛り上がったシャボン玉を見て、うれしそうに伝える。保育者は「シャボンの山だ。面白い。」と一緒に見る。

E児は、一緒にシャボン玉をしていた友達にも「見て!」と言い、バケツの中に残ったシャボン玉を見せる。2人は驚き、E児と同じようにするが、バケツでは狭そうだった。3人のつながりを大切にしたいと考えた保育者はタライを近くに置いておく。

3人は、タライに気付き、今度はタライを囲んで一緒にシャボン玉を吹き始める。「すごいのができた。」と言い、3人は、そっと吹いたりゆっくり吹いたり繰り返していくと、タライの中に泡が幾つも重なっていく。日光が当たり、いろいろな色に見えるシャボン玉を見て「先生、ここに虹ができたよ。」と叫ぶ。保育者が「きれいだね。」と言うと、E児は「きらきらがいっぱいだぁ!」と言い、また吹き始める。

6月　はさみでちょっきん!

保育者が、細長い色画用紙を「ちょっきん」と言いながらはさみで切り、ごちそうに見立てて、ハムスターの人形に食べさせる振りをする。幼児は面白そうに見ている。

色画用紙がある製作コーナーに気付いた幼児が、色画用紙と皿を選び、はさみで切り始める。「ちょっきん!これはキュウリ!」「次はニンジン。」と見立てを楽しむ。そして切った紙片を皿の上に乗せ、「ハム君、できたよ。」と差し出す。

保育者はハム君になって、「ありがとう。これは何かな?」と聞く。幼児は、「卵焼き。」「これはトマト。」と、楽しそうに答える。

「もぐもぐ、おいしいよ。」と保育者が言うと、「あ、今度はキャベツも切ろう!」「小さく切ってあげよう。」と慎重に細く切り始める。

その様子を見ていた幼児も「やりたい。」と、加わった。

9月　ポンポンつくって踊りたい!

5歳児がポンポンを持って音楽に合わせて踊っている。

それを見たF児とG児は、ポンポンを持ったつもりになって、まねて踊っていたが、「そうだ!」と思い付き、製作コーナーに行くと、置いてある教材の中から京花紙を選び、細長く縦に割く。

始めは慎重にゆっくり割き、コツを掴むと素早く何枚も割いていく。「このくらいでいいか。」と言い、細く割いた京花紙を束ねて真ん中あたりをセロハンテープでとめて持つと、ふさふさとしたポンポンができ、満足そうに見せ合う。

保育者が「いいこと考えたね。」と驚いて言うと、「これを持って踊りたい。」と言ったので、保育者は5歳児と同じ曲をかける。曲に合わせて2人が踊っていると、ポンポンを持った5歳児も来て、一緒に踊りを楽しむ。

育みたい資質・能力

知識及び技能の基礎

- 自分がやりたい遊びに必要な用具や教材を選び、使って楽しむ。　**自分の思い付いたものや、やりたいことに合った用具や教材を選んで使う**
- 紙を切る、割くなどの体験から紙の特性が分かり、遊びに取り入れて楽しむ。　**ものに関わり特性に気付く**

思考力、判断力、表現力等の基礎

- 思い付いたことや気付いたことを動きや言葉に表す。　**自分の思ったことや感じたことを動きや言葉で表現する**
- 偶然できたことに面白さを感じ、繰り返し試す。　**様々な環境に触れ、不思議さや面白さを感じてやってみる**
- 友達の姿からやりたいことを思い付き、試したり工夫したりする。　**思い付いたことを試したり工夫したりする**

学びに向かう力、人間性等

- 保育者や友達の動きや言葉に興味や関心をもち、自分もやってみようとする。　**他者からの刺激を受け、やってみたい気持ちをもつ**
- 友達や保育者に見守られ、やってみたいことをやり遂げるうれしさを感じる。　**やりたいと思ったことを実現するうれしさを感じる**

事例 5歳児 友達と考えを出し合いながら一緒に遊び を楽しむ

幼児の姿・保育者の願い

○「人形劇をしよう!」と4人の幼児が集まり相談を始める。次々に考えを出す幼児がいる一方、自分の考えや思いをなかなか出せない幼児もいる。

・自分の考えを伝えたり相手の考えを聞いたりしながら、相談して遊びを進める楽しさを味わってほしい。
・今までの経験を生かしながら、友達と一緒に諦めずにやりたいことを実現してほしい。

やりたい思いが引き出されると考えた環境の工夫

○自分の思いが友達に伝わるうれしさや、伝えることの大切さを感じられるよう、幼児の姿を見守りながら必要に応じて支える。

安心　友達と一緒に

○製作コーナーに、今まで経験してきた多様な教材を置き、幼児が自分で選択したり、幼児が求めるものを提示したりする。

自分で

○幼児のやりたい思いの実現のために一緒に考えたり、工夫して人形劇をつくる面白さや、人形ができ上がった喜びに共感したりして自分の力を発揮できるようにする。

試したり工夫したり　表現する楽しさ　友達と一緒に

○友達に見せて感想を聞く機会をもち、課題や新たな考えに気付けるようにする。

試したり工夫したり　友達と一緒に

○課題の解決の方法を考えるために相談したり工夫したりする時間を保障する。

表現する楽しさ

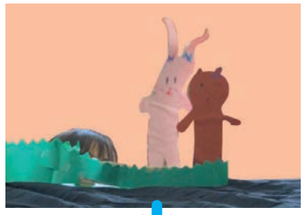
○友達に見せる機会をもち、自分たちの遊びの面白さが伝わるうれしさを感じられるようにする。

友達と一緒に

やりたいと思って遊んでいる姿

自分のめあてやイメージを実現する　試したり工夫したりする　うまくいかないことにも諦めないで取り組む

12月　人形劇をしよう!



「人形劇をしよう。」と4人の幼児が集まる。「ウサギが出てくるお話はどう?クマもいいかも。」というH児の言葉に3人は「いいね。」と賛同するが、自分の考えを出す様子はない。I児はクマの役になるが、J児とK児は黙っている。

その様子をしばらく保育者は見守っていたが、互いに思いをうまく出せない様子が続いたので、「誰が出てくるお話ですか?」と尋ねる。「ウサギとクマが出てくるお話なの。」とH児とI児が答える。「他にも動物が出てきた方がいい。」とJ児が小さな声で呟く。保育者はその言葉を聞き逃さず、「そうなのね。」と受け止めると、H児は「ウサギとクマに友達がいるのはどうかな。」と提案する。その言葉を受けてJ児は、「お友達のネコがいるといいかも!私ネコ。」と言う。K児は「私は太陽の役がやりたい。」と言い、4人の役が決まる。

4人の幼児は製作コーナーに行き、置いてある教材を見比べて自分のめあてに合うものを選ぶ。段ボールを使って人形が折り曲がらないようにしたり、カラーポリ袋で包んで厚みをつけたりして、自分が思い描く人形をつくる。「人形ができた!」と喜んで見せ合う幼児に、保育者は「できたね。これで、4人で人形劇ができるね。」と、そのうれしさに共感する。

4人はつくった人形の役になり、思い付いた言葉を言いながら動かしてみる。「できた!」と言い、保育者に「人形劇をぞう組のみんなに見せたい!」と伝える。

保育者が、「みんなが見えるように舞台も用意しないとね。」と投げかけると4人は相談し、巧技台を使って舞台をつくることにする。降園前、学級の友達に人形劇を見せる機会をもつ。『ウサギとクマとネコがお城に行って果物を食べて家に帰ってくる』という劇はすぐに終わった。見ていた幼児からは「楽しかった。」「人形がかわいいね。」という感想が出た一方で、「すぐ終わっちゃった。」「もっと見たかった。」という声も上がる。

4人は「もっと長くて楽しい劇にしてもう一度みんなに見せたい!」という思いをもつ。

翌日、4人は楽しみながら、じっくりと物語の続きを考えていく。そして、『ウサギがお城から家に帰った次の日にピクニックに行く』という話が加わり、人形劇に必要なピクニックの道具などもつくる。「いいね。」「みんなに見せよう!」と4人は張り切って人形劇を演じる。見ていた幼児から「話が長くなった!」「面白くなった!」という声が上がる。大きな拍手を聞き、「ちょっと恥ずかしかったけど、みんなに見せられたね。」「楽しかったね。」と言い、4人は笑顔で顔を見合わせ、やり遂げた満足感や達成感を味わう。

育みたい資質・能力

知識及び技能の基礎

●「こうしたい」という自分のめあてを実現できる用具や教材を選び、取り組む。
→ 今までの経験から用具や教材の特性を生かし、自分で選ぶことができる

●カラーポリ袋や画用紙、段ボールなどの特性が分かり、工夫してつくる。
→ やりたいことを実現するための方法に気付く

思考力、判断力、表現力等の基礎

●気付いたことや考えたことを伝え合いながら友達と一緒に物語を考える。
→ 気付いたことや考えたことを相手に分かるように伝える

●人形劇に必要なものに気が付き用意する。
→ 実現したいことに向かって試したり工夫したりする

●人形劇をより楽しくするために考えを出し合い、表現する楽しさを味わう。
→ 友達と考えを出し合いながら様々な表現を楽しむ

学びに向かう力、人間性等

●友達の意見を受け止め、よりよい人形劇にしようとする。
→ 友達と一緒にやりたいことの実現に向けて遊びを進める

●自分たちがつくった人形劇を学級の友達に見てもらいたいと思う。
→ 諦めないで最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう

●やりたい思いをもって友達と一緒に取り組み、達成感を味わう。

幼児期に育みたい資質・能力

事例検討・研究保育から、環境を通して幼児の“やりたい”という思いが引き出され、
主体的に遊ぶ中で育まれる資質・能力について、以下のとおり捉えた。

知識及び技能の基礎

3歳児
- 感触を楽しむ
- 用具にはそれぞれ使い方があることに気付く
- 自分が働きかけることで変化する面白さに気付く
- 繰り返し楽しみ満足感を味わう

4歳児
- 自分の思い付いたものや、やりたいことに合った用具や教材を選んで使う
- ものに関わり特性に気付く
- 用具や教材を組み合わせて使って遊ぶ面白さや楽しさを感じる

5歳児
- 今までの経験から用具や教材の特性を生かし、自分で選ぶことができる
- やりたいことを実現するための方法に気付く
- 実現したい自分のめあてに向けて取り組む楽しさを感じる

自分で用具・教材を扱えるように

繰り返しやりたいと思えるように

思考力、判断力、表現力等の基礎

3歳児
- 使いたいものを選んだり、試したりする
- 楽しいと感じたことを動きや言葉で表現する
- 自分の思い付いたことをしてみる
- 身近な環境に興味をもち自分なりに表現する
- 何かに見立てたり、何かのつもりになったりして遊ぶ楽しさを感じる

4歳児
- 自分の思ったことや感じたことを動きや言葉で表現する
- 様々な環境に触れ、不思議さや面白さを感じてやってみる
- 思い付いたことを試したり工夫したりする
- 自分のやりたいことを自分なりに考えて実現する
- 何かに見立てたり、何かのつもりになったりして友達と一緒に遊ぶ楽しさを感じる
- 友達と動きや言葉でやりとりをする楽しさを感じる

5歳児
- 気付いたことや考えたことを相手に分かるように伝える
- 実現したいことに向かって試したり工夫したりする
- 友達と考えを出し合いながら様々な表現を楽しむ
- イメージに合う教材を選択する
- 予想したり予測したりしながら試行錯誤する
- 自ら環境に関わり美しさや面白さ、不思議さ等、心動かされたコトを様々な方法で表現する
- 友達の考えに触れ、判断したり、自分で考えなおしたり、新しい考えを生み出したりする

試したり、工夫したりできるように

表現する楽しさを感じられるように

学びに向かう力、　人間性等

3歳児
- 保育者に親しみをもち、安心して動く
- 保育者や周りの幼児と一緒に動くことを楽しむ
- 面白い、楽しいと感じたことを満足するまでやってみる
- 自分からものやコトに関わろうとする
- 周りの幼児に関心をもち、同じように動いてみようとする
- 保育者に自分の思いを動きや言葉で表し、受け止められ安心感をもつ

4歳児
- やりたいと思ったことを実現するうれしさを感じる
- 他者からの刺激を受け、やってみたい気持ちをもつ
- 保育者や友達と触れ合う心地よさを感じながら、友達の喜びや悲しみなどの感情にも気付く
- 友達と一緒に動いたり関わったりする楽しさを感じる
- 自分でつくったものを使って遊ぶ楽しさを感じる

5歳児
- 友達と一緒にやりたいことの実現に向けて遊びを進める
- 諦めないで最後までやり遂げ、満足感や達成感を味わう
- 互いに考えを出し合いながら、よりよい方法を見付ける
- 初めてのことや難しいことにも挑戦しようとする
- 様々な経験を積み重ねる中で、互いのよさを認め合う
- 自分の気持ちを調整し、友達と折り合いを付けながら、より遊びを楽しくしていこうとする

安心してものや人と関われるように

興味がもてるように

友達と一緒に楽しめるように

育みたい資質・能力を支える環境

幼児の“やりたい”が引き出される環境の工夫

●物的環境の工夫　●人的環境の工夫

事例検討・研究保育から、幼児の“やりたい”が引き出される環境の観点ごとに、具体的な環境の工夫を以下にまとめた。
幼児の資質・能力が育まれる上で、安心・安定を基盤に興味や発達に応じて、以下の環境の工夫をすることが大事であることが分かった。

“やりたい”が引き出される環境の観点	3歳児	4歳児	5歳児
自分で用具・教材を扱えるように	●幼児に親しみのある用具や教材を複数用意しておき、「自分も使いたい」という一人ひとりの思いに応じられるようにする	●幼児の発達や技能に応じた用具や教材を選択することで、新しい遊びの面白さを感じるとともに、成功体験を積み重ねられるようにする	●3歳児から今まで経験した用具や教材を選択できるようにするとともに、新しい用具や教材を提示し、じっくりと取り組み満足感をもてるようにする
	●幼児と一緒に遊びながら、用具には使い方があることに気付けるようにする	●幼児と一緒に遊びながら、用具や教材の使い方に気付けるようにする ●用具や教材の置き方や表示を工夫し、自分から使ったり片付けたりできるようにする	●幼児と一緒に動きながら、扱い方やコツを伝える ●幼児が友達の姿から気付いたり、幼児同士で伝え合ったりして、用具や教材の特性や使い方に気付けるようにする
繰り返しやりたいと思えるように	●満足するまで扱え、一人ひとりが自分のペースで楽しめる数や量の用具や教材を用意する	●自分で安全に扱える用具や教材を置いた製作コーナーを日常的に設定する ●時には日常的な製作コーナーとは別に製作コーナーを設定し、新しい用具や教材に触れられるようにする	●「もっとこうしたい」「こうしてみてはどうだろう」という自分のめあてをもって、じっくりと取り組めるように時間や場を保障する ●手軽に使えるものだけでなく、幼児が遊びながら面白さを追求できる教材の選択や置き方、出し方を工夫する
	●幼児が楽しんでいることや満足している気持ちに共感する ●幼児がしていることをありのまま受け止め、保育者も一緒に楽しむ	●幼児が感じている面白さや実現する喜びに共感する	●保育者も遊びの一員として関わりながら、幼児の発見や気付きに共感したり、諦めずにやり遂げようとする姿を支えたりする
試したり、工夫したりできるように	●自分で扱えて満足できる用具や教材を用意する ●感触や動きに変化がある教材を精選する	●変化したり組み合わせたりできる用具や教材を用意する	●実現したいめあてに向かって試行錯誤できるような用具や教材を用意したり、時間や場を保障したりする
	●幼児が感じている驚きや不思議さに共感しながら一緒に面白がる	●偶然起きた事象への興味や気付きを見逃さず、幼児が感じている面白さに共感する	●やろうとしていることが幼児同士で分かり合えるように確かめたり、考えを引き出したりする ●幼児の考えや困っていることを学級で共有する機会をもち、新たな考えや気付きにつなげる
表現する楽しさを感じられるように	●身近な自然物を遊びや表現活動に取り入れる ●幼児の遊びのきっかけとなるよう、壁面装飾を季節や生活、身近な出来事への興味に応じて設定する	●色や形、音などの美しさや不思議さが感じられる用具や教材を用意する ●作ったものを大切にし、繰り返し遊びを楽しめるような片付け方や飾り方を工夫する	●3歳児から今までの経験を生かして幼児が選んだ用具や教材を提示できるように用意する ●心動かされる出来事や生活体験を通して、幼児が美しさや面白さ、不思議さを表現する過程を楽しめるようにする
	●心動かされる出来事を自分なりの方法で表現している姿を受け止める ●擬声語・擬態語（オノマトペ）やリズミカルな言葉の面白さを一緒に感じる	●「こうやってみよう」「先生、見て」という思いを受け止め、幼児が考えたやり方や動き方に共感する	●保育者も遊びの一員として関わりながら、幼児のやりたい思いの実現のために一緒に考えたり、幼児の思いに寄り添ったりする ●学級の友達や他学年の幼児に自分の表現を認められることで、満足感や意欲を感じられるようにする
安心してものや人と関われるように	●保育室の用具や教材の置き場所や置き方は設定を変えず、自分がやりたいと思ったことができるようにする ●一人ひとりがゆったり取り組めるように場を分けたり、一緒に過ごす楽しさを味わえるように場を近付けたりする	●友達や保育者と触れ合う心地よさを感じ、幼児が互いに関心をもてるような場を設定する	●園生活の流れの中で、自分なりに見通しをもって友達とやりたいことが実現できるように、学級の話し合いや幼児が確認しやすい掲示の仕方を工夫する
	●幼児の自発的な行動に共感することで、保育者に見守られるうれしさを感じられるようにする ●幼児が見立てたり、なりきったりしている面白さを受け止め、楽しさに共感する	●周りの幼児と一緒に動いたり関わったりする楽しさに共感する	●幼児の発想や工夫を受け止めながら、一緒に教材を探したり、用具の扱い方を考えたりして、幼児が自分のめあてに向かって試していく姿を見守る
興味がもてるように	●「面白そう」「やってみたい」と思えるような用具や教材の置き方、出し方を工夫する ●生活の中で経験している身近なものやコトを題材にする	●自分で選んだり組み合わせたりできるような用具や教材を用意し、「自分が思い付いたことを自分で実現できた」という経験を積み重ねられるようにする ●新しい用具や教材、技法に出合えるようにする	●用具や教材を自分で選んだり、保育者に要求したりして、やりたいことを実現する経験を積み重ねていく ●幼児が面白さや不思議さを感じてものの性質や仕組みを知ろうとしたり、挑戦しようとしたりできるようにする
	●幼児の動きや表情・言葉で表現する姿を受け止めながら、保育者や他の幼児の楽しさにも気付けるようにする	●幼児と一緒に遊びながら教材のもつ特性や魅力が伝わるようにする ●学級の友達や年長児の姿に関心をもち、同じように動いたり、発想を広げて動いたりできるようにする	●学級の話し合いや掲示の仕方を工夫し、園生活の出来事や友達の言動に関心をもてるようにする
友達と一緒に楽しめるように	●自分たちでも扱いやすい用具や教材、遊具を用意し、2、3人の幼児と同じ場で過ごせるようにする	●遊びの拠点となる場をつくったり、友達と同じものを身に付けたりできる用具や教材、遊具を用意する	●友達と力を合わせることで楽しめる遊具や活動を精選する ●友達との遊びの中で、自分の力を発揮して充実感を味わえる用具や教材、活動を提案する
	●周囲の幼児の存在に気付けるような言葉を掛けたり一緒に過ごす楽しさに共感したりする	●一人ひとりの幼児の思いや考えが相手に伝わっているのかを見守り、必要なときには橋渡しをする	●友達同士で相談して遊びを進める姿を認め、時には状況や課題を整理したり、解決の方法を一緒に考えたりする ●自分の思いを友達に伝える必要感や伝わるうれしさを感じられるようにする

小学校との接続

子供園では、幼児の発達を長期的な視点で捉え、環境を工夫し、幼児の主体的で直接的･具体的な体験を通して三つの資質･能力をしっかりと育んでいくこと、また、その三つの資質･能力が小学校への学びにつながっていくことを意識して、遊びを中心とした生活を充実させていくことが大切である。

西荻北子供園では近隣の桃井第三小学校と共に、幼保小連携の取組を教育課程に位置付け、長年継続して行ってきている。子供園の保育者と小学校の教員が、就学前の5歳児の運動遊びや、小学校低学年の体育の授業の在り方について互いに理解を深めるため、指導案を一緒に考え、実際に保育や授業を行う等の取組も試みている。また、小学校の通学区域にある就学前教育施設にも呼びかけ、幼保小合同研修や幼児と児童の交流活動を実施し、地域の保育者と小学校教員が、互いの教育内容や指導方法の違いや共通点、そして、子どもの発達の連続性について理解を深めている。今後も、発達や学びの連続性を図っていけるよう、互いの教育について理解を深めていくことが重要であると考える。

成果と課題

事例検討や研究保育から、幼児の“やりたい”が引き出される環境の七つの観点を見いだすことができた。観点を見いだしたことで、保育者は幼児の実態把握から育みたい方向性、援助や環境について深く考え、環境を丁寧に準備して実践をするようになった。援助や環境の工夫から、幼児の“やりたい”思いが引き出され、主体的に生き生きと遊ぶ姿につながり、その姿から各学年での育みたい資質･能力と、幼児の“やりたい”が引き出される環境について明確にすることができた。

“やりたい”思いから始めた遊びには楽しさがあり、もっと“やりたい”と幼児が繰り返し遊ぶことで、様々な技能が身に付いていく。その身に付いた技能を遊びで生かしながら試行錯誤し、自分なりのめあてを実現することで、幼児は充実感や達成感を味わうことができる。そして、遊びで感じたわくわくする気持ちが、次の楽しさとなり自発的な活動につながっていく。このように幼児教育において育みたい三つの資質･能力は、絡み合い、つながりながら一体的に育まれていくことを改めて確認した。

また、主体的に遊ぶ幼児の姿から、幼児の“やりたい”という思いは、遊びを通して人やもの、コトと関わる基となり、「何をどのようにしたいのか。」「どのようにすればよりよくなるのか。」について幼児自身が考えて行動することにつながることも捉えることができた。“やりたい”と思って取り組む遊びや活動の経験を積み重ねていくことは、幼児期の学びそのものであると考える。

環境を通して行う幼児期の教育において、用具や教材は重要な意味をもつ。保育者が教材研究を通して、用具や教材の特性を知り、幼児と用具や教材との関わりについて理解を深めることは、豊かな教育環境の創造や、幼児の遊びの充実につながる。今後は教材研究を中心に幼児の主体性や直接的･具体的な体験を豊かにする環境の在り方について、研究と実践を積み重ね、質の高い幼児教育を探求し続けていきたい。

■御指導いただいた先生

共立女子大学家政学部児童学科教授

田代　幸代　先生

■研究に携わった教職員

園　　長：石床　美穂子
副 園 長：小森　三奈子
主　　査：宮本　優子
主任教諭：佐藤　美波
3歳児担任：根本　葵／成田　希美
4歳児担任：杉本　有優美／舩井　佐和子
5歳児担任：小森　三奈子／結城　五月理
保育助手：吉田　雅子／福田　康代／小林　尚美／佐久間　直子
保育補助：岡田　彩子／松園　なつみ／笠井　英子／廣瀬　美紀子／平原　律子
　　矢野　和佳子／渡邊　芳恵／乙幡　三保子／風元　晶子
用務調理：河村　千春／井上　都
看 護 師：森川　綾子
令和2年度：川副　園美／福島　憲一／小坪　直子／松浦　友紀子
　　増田　由希子／穂原　恵子／芳野　ハンナ／森　貴美

杉並区立西荻北子供園

〒167-0042　東京都杉並区西荻北1-19-22
TEL：03-3399-0848　　FAX：03-3399-0724

https://www.suginami-school.ed.jp/nishiogikitakodo/